

岡崎市史料叢書編集出版検討会 会議録

1 開催日時・場所

令和5年3月3日（金） 午前10時から11時

岡崎市美術博物館会議室

2 出席者

神谷 智 （愛知大学教授）

神田竜也 （元愛知教育大学講師）

加藤重孝 （岡崎地方史研究会幹事）

鈴木テル子 （岡崎古文書研究会幹事）

安藤幸子 （新編知立市史近世部会調査協力員）

3 説明のため出席した事務局職員の職氏名

館長 前島 豊

副館長・学芸係長 大澤 一実

学芸係 主査 浦野 加穂子

学芸係 主査 湯谷 翔悟

学芸係 事務員 山下 葵

学芸係 主事（再任用） 堀江 登志実

4 会議録

あいさつ（美術博物館館長）

1 報告

(1) 史料叢書売上数（令和4年4月～同5年1月）

（美術博物館・文化振興課・家康館・瀧山寺・大樹寺）

『瀧山寺文書』上 2冊 下 1冊

『大樹寺文書』上 1冊 下 2冊

『長嶋家文書』 0冊

『中根家文書』上 0冊 下 0冊

(2) 「岡崎町方文書」について

掲載史料

別紙のとおり

広報宣伝チラシ

別紙のとおり

ページ数・冊数

580頁（口絵・目次・解題・本文）400部

神谷) 寄贈と販売の割合はどうなっているか
事務局) 半分が寄贈、半分は販売である。

販売価格

4,200 円

刊行スケジュール

令和 5 年 3 月 校了

令和 5 年 3 月末日 刊行

事務局) 日本歴史 4 月号に「岡崎町方文書」の広告を掲載する。既刊についても掲載があるので、販売増に期待したい。

2 議題

(1) 次回「本多家文書」の刊行

① 掲載史料について

岡崎市情報公開条例により非公開。

② 巻の名称

案 1 忠勝系本多家文書

案 2 本多忠勝家文書

案 3 本多家(忠勝系)文書 等

+ 忠勝系に宗家・嫡流等つけるか

※後本多・中務大輔家等：三河地域以外には馴染みがない

「その後の刊行①本多家家臣文書」の書名も連動

③ 刊行年度

令和 8 年度

【議事】

・収録する古文書類について

神谷) どれくらいの量か

事務局) 詳しくは不明だが、1冊の史料叢書として出すには十分な分量で、ある程度選定する作業が必要になる。

神谷) 選定にあたっては近世史料を中心とする旨を含め、発行予定の史料叢書の内容について本多家のご当主に確認をするように。

・巻の名称について

事務局) 本多家はいくつもある。本多忠勝家の嫡流であることがわかるようにしたい。他の自治体の刊行する史料集も参照したが、似たような事例が見つからない。

加藤) ~系などは巻名としてスッキリしない。

神田) ~流という表現にはなじみがないように思う。このあたりの表現は武家文書で使われ

ている表記を参照した方が良い。

神谷) 忠勝の名前はあった方が良い。

鈴木) 岡崎では「前本多」「後本多」の呼称が定着している。大体の書籍は中を開いてみると分からないものが多い。

事務局) 「後本多」という名称は岡崎固有の呼称であるが、この際これを巻名にして全国区に広めるということも考えられる。

神谷) 国史大辞典や藩史大辞典など、一般的な辞典において本多忠勝家をどのように表記しているかの確認は必要。

事務局) その点については今後確認する。

安藤) いずれの巻名にするとしても、巻頭に系図を載せてほしい。

事務局) あまり長い巻名は背表紙に記載するのも難しいので検討したい。

本多氏か本多家かというところはどうか。一般的に、松平氏などでは松平全体を指すときに用い、個別の家を指すときは松平家とすることで一般化している。

神谷) 忠勝家という個別の「家」ということで本多家が良い。

事務局) 本多家とすること、忠勝という名前を入れることを念頭におきながら、より分かりやすく簡潔な巻名を今後も検討していく。

(2) その後の刊行

① 本多家家臣文書

都筑家、梶家（家老）、服部家（忠勝譜代）

伊藤家（記録類）、和田家（分限帳）、緒方家（新参家臣）

その他、徳永・吉村・浅野家

中根家は御書など、梶家・都築家および他家の史料を補完できる史料を採録

他機関所蔵の史料も調査

林家（客分）：名古屋市博物館

→令和4年7月に撮影（873件）、選定に御協力を

太地家：明治大学博物館　大藤家：立教大

② 町方文書の続編→今年度刊行巻に、続編作成の旨を記載

③ 三河木綿関係

神谷) 林家は一紙物が多いので、林家のみでの刊行は厳しい。

事務局) 林家単体ではなく、複数の家を取り入れる。

神谷) 所収する文書が多岐にわたるので、選定にかなりの時間と労力がかかる。またそれぞれの家のご当主の確認を取る必要もある。それを考慮したスケジュールを立てた方

が良い。

事務局) まずは当館寄託品や岡崎市域の古文書を中心にした構成で1冊出したい。その後徐々に範囲を広げたい。

事務局) ほかに史料叢書にて取り上げるべきものはあるか。石原家・内田家・長嶋家などがある。長嶋家は御用日記で1冊あるが、一紙物などもあるためそちらも対象となる。

神谷) 刊行はかなり先のことにはなるが、引き続き検討を。